

## 福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（1月分）

留学先大学：ルーマニア・アメリカ大学

氏名：福井理文

こんにちは。この最終月例報告書を書くにあたり、参考にしようと先輩や同じ時期に留学した福井大学生の月例報告書にほぼ初めて目を通して、恥ずかしくて死にたくなっている人間です。皆さん、素晴らしい報告書をお書きになりますね…。感動しました。自分の月例報告書がとんでもなく恥ずかしく思えるほどに。読んでいて思ったのですが、最終報告書の内容に関しては皆さんで少しパターンのようなものがあるように感じました。最終とは言えいつも変わらず淡々と書いていたり、最後に振り返りをまとめていたり…。特にその振り返りの内容が、違う学年、違う国に留学しているにも関わらず、似ている部分があるのです。もちろん僕も大きく賛同できる部分があって、皆感じることはやはり同じなんだなと感じた次第です。僕も同じような内容を書こうかなと読む前は考えていました。

しかしながら、僕は他の方々と内容が被らないように必殺自分語りをキめていこうかと思えます。もし色んな人の月例報告書をしっかり読んでいるなんていう不思議な人がこの報告書を読んでいるとするならば、そんな方にはいろいろ違った内容を提供したいと思うからです。では、興味があれば読んでいって下さい。

僕がこの留学で痛感したのは主に2つです。「言語は圧倒的な力を持っているということ」、そして「自分でどこまで行っても日本人であることから離れられないんだな」ということです。

僕はルーマニアに来て、初めはルーマニア語を少しくらいは話せるようになろうかなと思っていましたが、アジアセンターのルーマニア学生は英語で話してくれるし、僕はどちらかという他の国からルーマニアに来ている学生と関わるが多かったので早々にルーマニア語を諦めました。しかし最近になり、よくいくお店の店員さん等、かなり親密になった人たちに会った時にルーマニア語で話しかけられることが増えたのです。そういうことが続いたときに申し訳ない気持ちが出てきました。この人はきっと僕に対して歩み寄りたくて自分をしっかり表現できる母国語で話しかけてくれているのに、僕はそれに応えられない、と思ったのです。

考えるきっかけとなったもう一つの決定的な出来事は、ドイツで元福井大学留学生のショーンと再会した時です。その時に、ショーンがこちらに対して日本語で話しかけてくれるのに対し、僕はショーンの母国語である中国語を全く話せないなと思ったのです。思えば、ショーンが留学していた1年の間に、彼から中国語を学ぶ機会もあったはずなのに、

必要ないからとそれをしなかった自分に対して、恥ずかしさにも似た申し訳無さがこみ上げてきました。もしそこで勉強していたら、他にも中国語を話せる人とも仲良くなる機会が手に入っていたかもしれないのに、そのチャンスを失ったと考えると、凄く勿体ないことをしているようにも感じられました。

言語によっては、使う脳の部分が違うこともあるそうです。だとするなら、母国語というものがその人を形成してきた部分は小さくないはずで、英語や他の言語では見られないその人のパーソナリティーを表すこともあるのではないかと思います。使える言語が多ければ多いほど、たくさんの方の内側を見ることが出来て、より深い繋がりを持つてのではないかと思います。言語にはそれくらいの力があり、それができる人は本当に強い人なのだろうなあと思いました。

もう一つの「日本人であること」に関しては、主に旅行で感じたことです。もちろん、結局日本食が恋しくなるとか、日本良い国やなあとか、そういうことも思ったのも含めてなんですが、一番は見た目に対して思った部分が大きいです。というのは、僕はルームシェアがきつくなった時は旅行していました。友達と行った所も多く、一人で行ったことのある国や都市は少ないですが、一人の時はたまに人に話しかけられることがあります。向こうから話しかけてくる来る人はほとんどの場合日本、もしくはアジアに関心があったりするんですよ。僕はこの留学で、この国出身だからという目で人を判断しないようにしようとか、逆に日本人という要素を取り払った時に自分に残るものって何なんだろうとか考えていましたが、結局見た目とか内面にもこの要素は深く絡んでいて切り離すことなんて出来ないんだなと実感しました。こう考えると、やはり見た目がいわゆる外国人で日本生まれの方が周りから受ける視線とか、生活の中で抱えていくものって僕からでは到底理解できないようなものなのだろうと改めて感じました。僕は幸運にも、見た目から日本人とみられることに対して不快感は抱かないし、むしろ先人たちのお陰で何か誇らしく感じる場面の方が多かったので、これからもこの自分のアイデンティティと前向きに付き合っていけそうな気がします。まあそんな大それた状況になることなんて正直あるかないか分かりませんが。

留学は何というか、日本では経験できなかったことが経験できたのも勿論ですが、その出来事を自分の中で内省することが出来た期間でした。あくまで僕にとっては。人それぞれ留学に求めるものも違うし感じることもそれぞれ。この報告書を読んでいて、かつ留学を控えている人には、どんな留学でも良いと思います。後悔が無いようにだけ過ごして欲しいなと思います。

終わり！